ACTIVITIES OF SDGs

ドトール・日レスホールディングスの活動

従来のお客様・株主・社員・地域社会への貢献に加え、SDGsを経営に組み入れ、企業収益を高めると同時に社会や地球環境の改善につながるよう構築してまいります。

地域や地球の持続性

～ 環境負荷低減、地域社会への貢献 ～

食品ロス削減対策

まだ十分に食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう食品は、社会全体で向き合うべき課題のひとつです。当社グループでは、日々の店舗運営や製造現場の中で、食品ロスの削減につながるさまざまな取り組みを行っています。

サンメリーや石窯パン工房の各店では、サンドイッチ用にカットした食パンの耳を安価で販売したり、フランスパンをラスクに加工したりと、素材を無駄にせず新たな商品として提供しています。夕方にはタイムサービスやお得な袋詰めセットの販売も行い、売り切る工夫を通じて、日々の食品ロスをできる限り減らしています。

また、D&Nコンフェクショナリーでは、東京都江東区の辰己工場に隣接する「東京リバーサイドスイーツ」にて、製造過程で型崩れしてしまったケーキなどをアウトレット価格で販売。味や品質に問題はなく、多くのお客様にご好評をいただいています。

フードバンク支援

厚生労働省の「2022年 国民生活基礎調査」によると、日本では子どもの約9人に1人が貧困状態にあり、特にひとり親世帯では約44%がその影響を受けているとされています。一方、農林水産省および環境省の推計（2022年度）によれば、国内では年間約472万トンもの「まだ食べられる食品」が廃棄されており、その焼却に伴うCO_2排出も、環境への大きな負荷となっています。ドトールグループでは、メニューの見直しや販売状況の変化により、やむを得ず食材や調味料が余剰となる場合があります。こうした背景から、「食品ロスの削減」と「貧困対策」の両立を目指す「特定非営利活動法人フードバンクTAMA」の理念に共感し、2021年9月より、当グループ内で発生した未使用食材の定期的な寄付を行っています。2025年3月時点で、当グループからの寄付総量は18トンを超えました。今後もこの取り組みを継続し、社会課題の解決と持続可能な地域づくりに貢献していきます。

「TABETE」の導入

エクセルシオール カフェでは、充実したラインナップでお客様に商品を選ぶ楽しさを提供する一方で、店内で調理するサンドイッチ類などは翌日に持ち越すことができず、やむなく廃棄せざるを得ない場合があります。また、配送時や陳列時に割れてしまったり、賞味期限が理由で販売できない焼き菓子など、まだ食べられるのに捨ててしまうのは“もったいない”店舗での食品廃棄に課題を抱えていました。
このような食品廃棄の課題を受け、エクセルシオール カフェでは、フードシェアリングサービス「TABETE（タベテ）」の趣旨に賛同し、2021年8月から直営店で導入を開始しました。このサービスは、“もったいない”という想いに共感してくださるお客様と店舗とを、アプリを通じてマッチングする仕組みです。さらに、2024年6月からはグループ業態であるAUX BACCHANALES（オーバカナル／一部店舗を除く）にも展開を広げています。今後も、店舗での食品ロス削減を通じて、お客様とともに持続可能な社会の実現を目指してまいります。

割引販売の導入

ドトールコーヒーショップ全店とエクセルシオール カフェのＦＣ店では、2021年11月より一部商品の割引販売を導入しています。対象商品は当日に消費期限を迎えるデニッシュ、焼き菓子、サンドイッチ等の袋詰め商品で、割引販売の実施の有無は各店舗の判断に委ねています。開始時間や割引率（10%・20%・30%の３種類）は、当日の販売状況によっても異なります。まだ食べられるものをできるだけ廃棄させない施策を本部として用意し、地道にフードロス削減に貢献していきます。

食品資源の有効活用

自然食品F&Fや食のSELECTネットショップ安心堂で人気の「絶品豆腐」。その豆腐の製造過程で発生するおからやサンメリー、D&Nコンフェクショナリーの工場で発生するパンやケーキの切れ端等を肥料としてリサイクルしています。食品循環資源の有効活用は環境保全につながり、廃棄処理費の低減にもなることから、今後ともリサイクルを推進していきます。

豆腐のおから

パン

廃油をリサイクル

ホールディングス傘下のレストラン業態の店舗では、毎日多くの揚げ油を使用します。その使用済みの食用油を回収し、工業用石鹸や家畜などの飼料、肥料の原料へとリサイクルする活動に取り組んでいます。2023年度は店舗とセントラルキッチンの合計で約70.6トンの廃油がリサイクルされました。

抽出後のコーヒー粉リサイクル

ドトールコーヒーでは、チルドカップコーヒーを製造する時にごみとして大量に排出される抽出後のコーヒー粉の一部を再利用して、堆肥にする取り組みを製造委託先と共に実施しています。抽出後のコーヒー粉を発酵させて堆肥化し、日本最大級のお茶の生産地・静岡県にある、にしたな株式会社と提携して、「やぶきた茶」という品種の茶葉を育てています。コーヒー堆肥を利用した試験栽培では、養分吸収率の高い細根が増加する研究結果が得られています。

抽出後のコーヒー粉は、他にもたくさんの可能性を秘めています。「おいしい」だけで終わらない、未来につながる活動として、コーヒー会社にできることを考えていきます。

ユニフォームの一部にリサイクル素材を使用

2024年12月にリニューアルしたドトールコーヒーショップのユニフォームは、実際に着用する店舗スタッフの声を積極的に取り入れ、機能性やファッション性に加えて、ジェンダーレスなデザインを採用しています。また、生地の一部には、漂着ペットボトルを原料とした「UpDRIFT®」※を使用しています。日常的に着用するユニフォームを通じて、店舗スタッフ一人ひとりが地球環境について身近に考えるきっかけとなり、さらにドトールコーヒーショップで働く誇りにつながることを期待しています。

※UpDRIFT®（アップドリフト）素材とは
ライフスタイル提案商社の豊島株式会社が展開する再生繊維。海・川・森に廃棄され散乱する漂着ペットボトルごみ等を、地方自治体及び、企業と連携して行うクリーンアップ活動「Green and Blue Challenge®」で回収し、アパレル製品原料となる資源（糸）に生まれ変わらせます。

工場の環境保護への取り組み

ドトールコーヒーの焙煎工場では製造工程において、環境保護を促進する機器の設置や省エネ、リサイクル活動など、環境に配慮したさまざまな取り組みを行っています。ここでは、その中の代表的なものをご紹介します。

脱臭装置の設置

コーヒーの香りが苦手な方への配慮から、脱臭装置を設置しています。焙煎時に発生する煙や臭いは白金触媒を使って再燃焼し、分解した後に屋上の煙突から排出することで、臭いの低減と無色化を実現しています。

麻袋のリサイクル

コーヒー生豆は一部の生産国を除き、麻の袋（麻袋）で輸入しています。工場では年間約9,000トンの豆を使用しています。そのため麻袋の量も多いことから、麻袋の一部を大分県や千葉県の養蜂家に提供し、はちみつを採取する際のくん煙燃料としています。そのはちみつを、エクセルシオール カフェやD&Nコンフェクショナリーではケーキの食材として使用したり、ドトール オンラインショップでは「コーヒー豆を浸して作ったはちみつ」として製品化しています。

コーヒー豆のアップサイクル

工場では、焙煎したコーヒー豆をコーヒー粉に加工する際に発生するチャフ（豆の薄皮や微粉）を、これまで肥料や牧場で使用される敷料として、100%リサイクルしてきました。環境意識の高まりとともに、再資源化の新たな可能性を検討する中、2022年4月、株式会社Gakkenとの協業により、コーヒーと子どもたちに親しまれている粘土を組み合わせた「コーヒー粘土」が誕生しました。香り豊かなこの粘土は、全国の幼稚園・保育所・こども園向けの教材として展開されました。これまで農業用途にリサイクルしていたチャフの一部を、新たに粘土の原料として活用することで、知育と環境配慮を両立させたエコロジーな教材へとアップサイクルしました。今後もこのような取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをさらに強化していきます。

CO_2排出量の削減

店舗のサイン看板や店内照明にLEDを導入

ドトールコーヒーの店舗、オフィス、工場では、時代に合わせた省エネ対策を行ってきました。店舗とオフィスでは、空調やコンベアトースターを新装することで節電を実施。さらに店舗のサイン看板や店内照明にCO_2排出量の削減に効果的なLED照明器具を導入することで、省エネを実現した店舗設計を推進しています。

コンベアトースター

	旧マシン	新マシン
1日あたりの消費電力		
	50.4kw	23.0kw

54%削減

照明器具

	2000年代後半まで ハロゲン球/クリプトン球	2000年代後半から 蛍光灯	2010年代 LED
1灯あたりのおよその消費電力			
	30〜100W	10〜50W	5〜13W

空調機

	2000年頃まで ノンインバータ空調がメイン	2010年頃 インバータ空調がメインに	2020年 インバーター空調
5馬力3.7kw1台当たりの年間消費電力			
	6,090kwh	3,432kwh	2,620kwh

44%削減　57%削減

実質再生可能エネルギーの導入

当社グループでは、オフィスおよび店舗、約130拠点において、しろくま電力（ぱわー）による実質再生可能エネルギー100%の電力を導入しています。これにより、2025年2月期には約7,700トン※のCO_2排出量を削減することができました。今後も、実質再生可能エネルギーのさらなる導入をはじめとする取り組みを通じて、CO_2排出量の一層の削減に努めていきます。

※日本全国平均のCO_2排出係数をもとに算出。

店内飲食の陶磁器・グラス提供

ドトールコーヒーショップでは、創業当初より、店内飲食の際には陶磁器やグラスで提供しており、紙カップやプラスチック容器などの使い捨て製品は使用していません。

そのことにより削減されたCO_2排出量は、過去10年間の年間平均で10,319トン、東京ドーム618個分に相当します。累計では92,872トン、東京ドーム5,564個分にのぼります。

環境配慮資材への切り替え

地球温暖化や大気汚染の影響により、地球上の森林は年々減少しています。こうした状況の中、適切な森林管理を行う森林業者や地域を支援し、世界全体の森林保全に貢献する「認証製品」が注目されています。認証製品が消費者の手に届くまでには、最終製品になるまでの生産、加工、流通に関わるすべての組織が認証を受ける必要があります。

当社グループでは、環境に配慮した資材の採用を推進しており、お客様に提供する主要な紙資材については、消費重量ベースで認証紙の採用率100%を目指して取り組んでいます。特に消費量の多い紙ナプキンや紙袋から着手し、従来プラスチック製だったテイクアウト用のマドラーやアイスドリンクカップ（一部）も、順次、認証紙製に切り替えています。さらに、コンビニエンスストアやスーパーで販売しているチルドカップ製品では、一般的にプラスチック容器が主流のチルド飲料において紙容器の採用を始めており、使用する紙についても順次、認証紙への切り替えを進めています。

また、店舗で使用するストローは一部を除き、バイオマスプラスチック製に切り替えました。チルドカップ製品においても、バイオマスストローやバイオマスインキの使用、アルミ蓋の薄肉化などを進めることで、プラスチックやアルミごみの削減、CO_2排出量の低減に取り組んでいます。開発・製造に関わる環境が変化する中でも、風味をはじめとした品質の検証は欠かさず、味覚へのこだわりを大切にしながら、環境と調和した製品づくりを続けています。

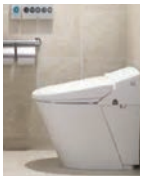
環境にやさしい店づくり

ドトールコーヒーショップやエクセルシオール カフェの一部店舗では、地球や公園をテーマに環境配慮型の店づくりを進めています。店舗で使用した抽出後のコーヒー粉とコルクを混ぜ合わせた100%天然植物由来のエコ素材をテーブル什器に採用したり、廃棄衣料を原料とする循環型繊維リサイクルボードを厨房カウンターや客席カウンターに採用するなど、廃材や古材を有効活用しています。また、資材メーカーで廃盤となったクロスやタイルを採用するなど、サプライチェーン全体での廃棄削減にも取り組んでいます。

節水対策

ドトールグループでは、店舗のトイレを段階的に新装することで着実に節水を実現しています。また厨房の蛇口に最大80%の節水が可能になるノズルを設置。水圧と空気を利用して水泡を放出する特殊機能で、洗浄力を落とすことなく水道使用量の削減に貢献しています。

トイレ

		
2000年頃まで ロータンク式	2000年代 タンクレスの登場	2010年代 タンクレス
流水量（大）		
8～13ℓ	5～8ℓ	3.8～5ℓ

地域貢献活動

写真提供：足立よみうり新聞

ドトールコーヒーショップでは各店舗が拠点となり、地域の方のニーズやご要望に応えたコーヒー教室やお仕事体験等を開催しています。

1 各店舗を軸に展開するコーヒー教室

ドトールコーヒーの社員が講師となってコーヒー教室を開催し、コーヒーの魅力や自宅でも楽しめる抽出のポイントをお伝えしています。地域のコミュニケーションの場としての側面も備えています。

2 教育機関・福祉施設を対象にしたコーヒー教室・お仕事体験

中学生に向けたお仕事体験では、コーヒーの魅力や自宅でも楽しめる抽出のポイントとともに、コーヒーの生産、流通、販売の仕組みをお伝えすることで、仕事に対する考えや自身の未来を考えるきっかけを提供しています。

社会貢献活動

全国に展開する店舗での募金活動を通じ、
これまでに総額2億5,470万円を寄付してきました。

募金活動の始まり

創業者の鳥羽博道が、ある主婦がカンボジアに学校を作るボランティア活動を紹介したＴＶ番組をみて、店舗での取り組みを呼びかけました。

募金活動 実績（2000 年～ 2011 年）

「ドトールありがとう募金」：小学校23校舎を寄付

東日本大震災・津波義援金

期間　：2011年3月16日～2012年2月29日
寄付先：日本赤十字社
義援金：1億145万円
※ドトールコーヒーショップ、エクセルシオール カフェ、洋麺屋五右衛門、石窯パン工房サンメリー各業態約1,900店で実施

東日本大震災・津波遺児支援

期間　：2012年4月1日～2014年3月20日
寄付先：あしなが育英会
義援金：1,300万円
※ドトールコーヒーショップ
目的　：1．子供たちが利用する「レインボーハウス」建築
　　2．子供たちの心を癒す活動支援

令和６年能登半島地震災害義援金

期間　：2024年1月11日～2024年2月29日
寄付先：日本赤十字社
義援金：1,000万円
※ドトールコーヒーショップ、エクセルシオール カフェ、洋麺屋 五右衛門、星乃珈琲店、石窯パン工房サンメリーなど約2,000店舗で実施

その他

・大雨・台風災害地への義援金